

## CQ2：救急医療体制（緊急度、現場滞在時間等）

## 【方法】

2019年と2022年のそれぞれ1月1日から12月31日までのクリーニングデータから、転院搬送症例、緊急度判定の入力なし、搬送先が不明を除外した症例を対象とした。搬送総数・年齢別搬送数と割合・緊急度別搬送数と割合・現場滞在時間・活動全所要時間・医療圏外搬送数と割合・疾患群・転帰について比較を行った。なお、年齢階層別の解析では小児（0-14歳）、成人（15-64歳）、高齢者（65歳以上）に分類した。

※2021年4月に大阪狭山市消防本部が堺市消防局に業務委託した。これらの変化は、特に堺圏域と南河内圏域の各データに影響を与えたことが想定されるため、この2圏域のデータについては、考察での言及を控えた。

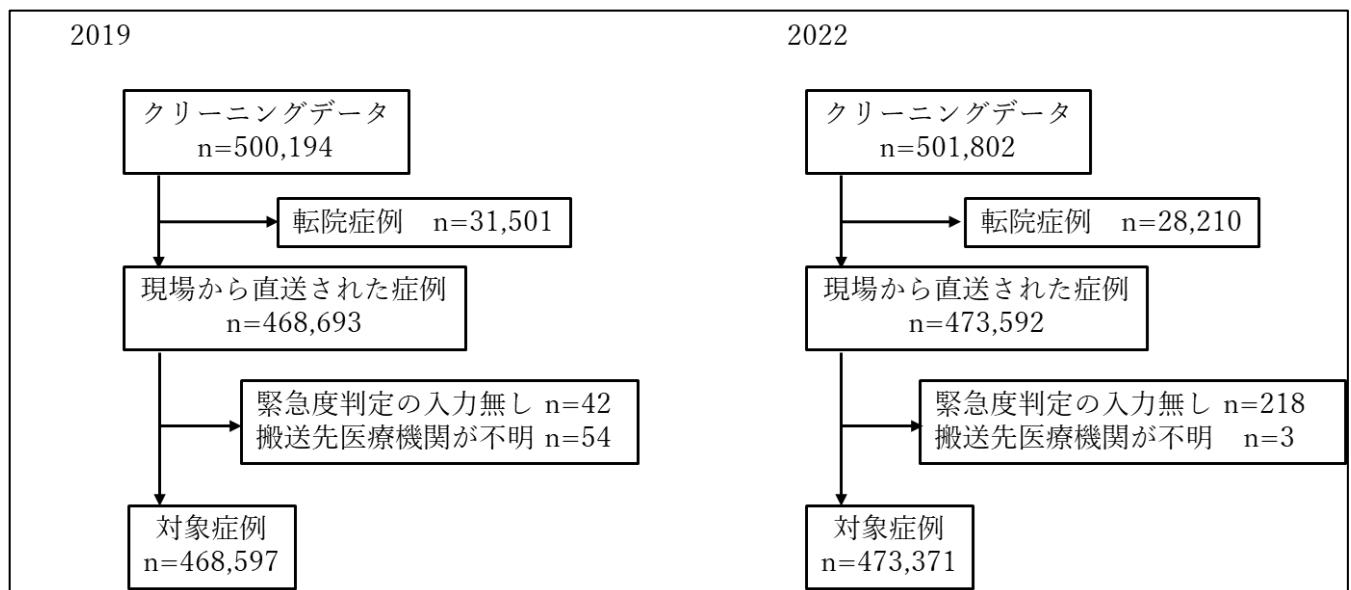
※2020年12月に実施基準が改正されたことから、本府全体のデータに何らかの影響を与えた可能性がある。

## 【結果】

## 1) 傷病者フロー（図表 11）

対象症例はクリーニングデータから、転院搬送症例（2019年；31,501例、2022年；28,210例）、緊急度判定の入力なし（2019年；42例、2022年；218例）、搬送先が不明（2019年；54例、2022年；3例）を除外し、2019年；468,597例、2022年；473,371例であった。

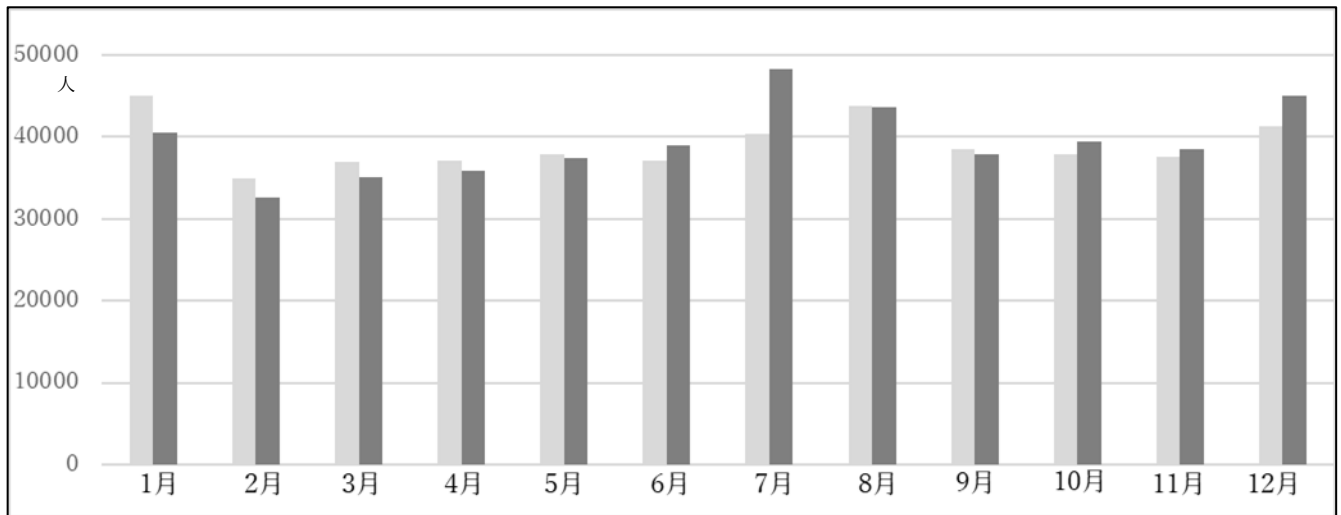
（図表 11）傷病者フロー



## 2) 搬送傷病者数（図表 12、13）

2019年と2022年を比較すると、2022年の搬送数は2019年と同程度となり、合計で1.0%増加していた。これはコロナ禍以降では初めての現象であり、2022年はコロナ禍が救急搬送数減少に影響しなかった最初の年となった。また、月別のデータを見ると、明らかに第六波と第七波以降で異なる傾向にあることがわかる。すなわち、第六波は感染蔓延の極期（1、2月）に救急搬送総数は対2019年比で大きく減少しているが、第七波以降はむしろ感染蔓延の極期に救急搬送総数が対2019年比で増加していることがわかる（7、12月）。なお、二次医療圏別では、増減ばらつきがあることが見て取れた。

(図表 12) 月別搬送傷病者数



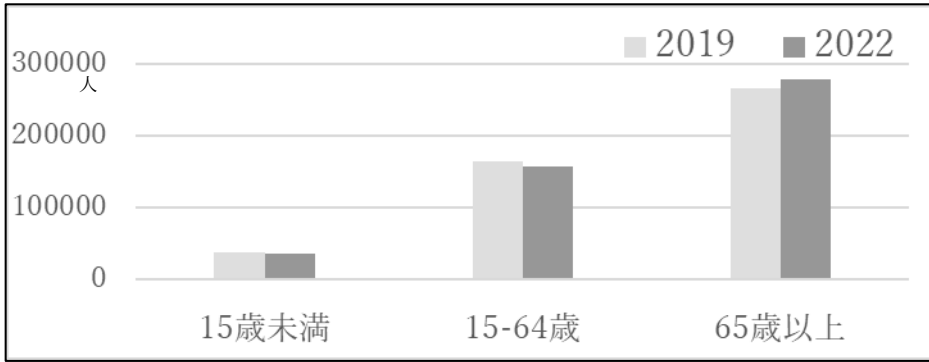
(図表 13) 圏域別搬送傷病者数

月別	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
1月	44,990	40,581	4,190	4,007	3,431	3,225	5,483	5,017	4,949	4,618	1,786	1,469	4,652	4,304	4,021	3,639	16,478	14,302
2月	34,950	32,605	3,158	3,180	2,681	2,838	4,203	4,449	3,869	3,959	1,384	1,246	3,437	3,676	3,103	3,138	13,115	10,119
3月	36,989	35,148	3,388	3,246	2,836	2,835	4,290	4,461	4,035	4,125	1,425	1,315	3,584	3,757	3,286	3,024	14,145	12,385
4月	37,102	35,857	3,622	3,565	2,851	2,870	4,376	4,508	4,036	4,015	1,386	1,206	3,630	3,860	3,209	3,188	13,992	12,645
5月	37,841	37,371	3,636	3,713	2,918	3,072	4,583	4,588	4,169	3,772	1,416	1,347	3,611	3,946	3,396	3,380	14,112	13,553
6月	37,109	39,045	3,690	3,820	2,890	3,027	4,274	4,833	3,963	4,199	1,367	1,360	3,648	4,074	3,269	3,484	14,008	14,248
7月	40,413	48,261	3,923	4,826	3,076	4,029	4,848	6,181	4,404	5,559	1,573	1,662	3,925	5,195	3,563	4,401	15,101	16,408
8月	43,867	43,601	4,196	4,329	3,358	3,806	5,150	5,879	4,825	4,474	1,655	1,538	4,220	5,051	3,870	4,388	16,593	14,136
9月	38,548	37,896	3,581	3,788	3,004	2,962	4,567	4,822	4,199	3,618	1,469	1,305	3,670	4,307	3,616	3,708	14,442	13,386
10月	37,834	39,457	3,539	4,097	2,884	3,139	4,490	4,896	4,139	3,718	1,516	1,410	3,626	4,377	3,392	3,911	14,248	13,909
11月	37,628	38,518	3,516	4,036	2,787	3,114	4,517	4,881	4,192	3,805	1,506	1,407	3,683	4,120	3,285	3,423	14,142	13,732
12月	41,326	45,031	4,079	4,438	3,155	3,697	4,267	5,767	4,645	4,631	1,670	1,663	3,888	4,958	3,684	4,116	15,938	15,761
合計	468,597	473,371	44,518	47,045	35,871	38,614	55,048	60,282	51,425	50,493	18,153	16,928	45,574	51,625	41,694	43,800	176,314	164,584
変化率 (%)	1		5.4		7.1		8.7		-1.8		-7.2		11.7		4.8		-7.1	

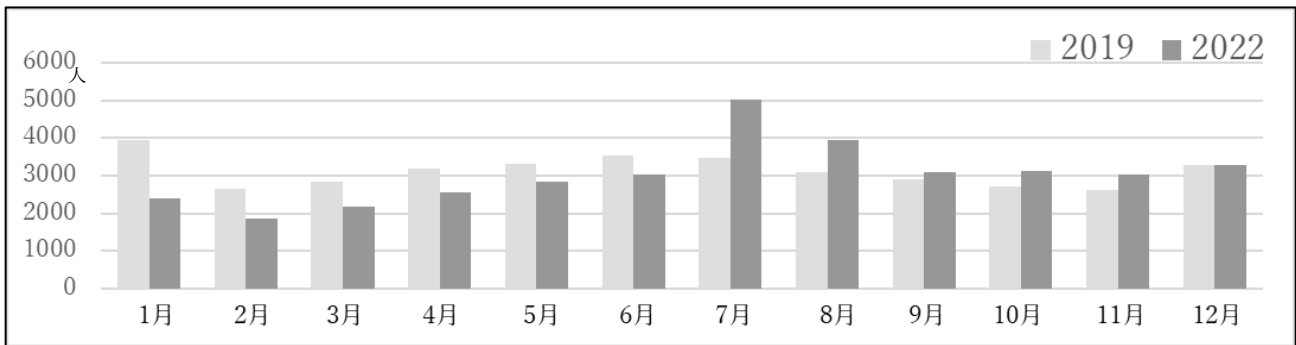
## 3) 年齢別搬送傷病者数・割合 (図表 14-17)

小児および高齢者については、別項で検証を行うため、本項では概要のみ示す。年齢別搬送数は、高齢者のみ 2019 年より 2022 年の方が増加していた (図表 14)。すなわち、高齢者搬送数の増加が、前述した搬送総数に寄与していることが判明した。月別にみると、2022 年は、小児高齢者とも第六波 (1 月) は対 2019 年比で減少が著明であった (図表 15-17)。その後、小児については、対 2019 年比でしばらく減少が継続していたが、第七波の時期に極端に増加し、それ以降は 2019 年と同等以上の搬送数であった。高齢者については、2 月以降は概ね 2019 年を上回って推移し、第七波での増加は小児と同様に著明であった。

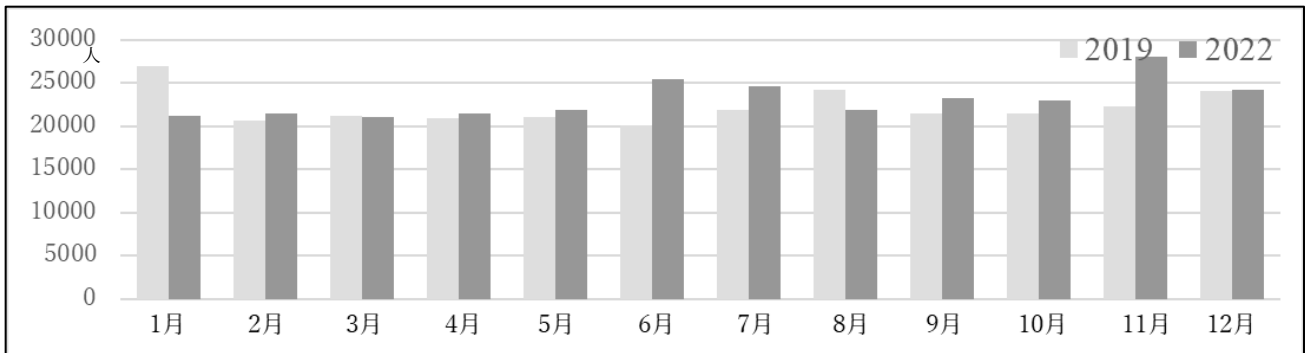
(図表 14) 年齢別搬送傷病者数・割合



(図表 15) 搬送傷病者数 (小児)



(図表 16) 搬送傷病者数 (高齢者)



(図表 17) 圏域別、年齢別搬送傷病者数・割合

	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
0-14歳	37,539	36,304	4,350	4,528	3,151	3,141	4,635	4,763	3,999	3,865	1,429	1,134	3,835	4,126	3,664	3,461	12,476	11,286
	8.0%	7.7%	9.8%	9.6%	8.8%	8.1%	8.4%	7.9%	7.8%	7.7%	7.9%	6.7%	8.4%	8.0%	8.8%	7.9%	7.1%	6.9%
15-64歳	164,676	158,189	13,947	14,255	11,296	11,306	17,764	18,185	16,588	15,680	5,281	4,730	14,347	15,532	14,085	13,980	71,368	64,521
	35.1%	33.4%	31.3%	30.3%	31.5%	29.3%	32.3%	30.2%	32.3%	31.1%	29.1%	27.9%	31.5%	30.1%	33.8%	31.9%	40.5%	39.2%
65歳-	266,382	278,878	26,221	28,262	21,424	24,167	32,649	37,334	30,838	30,948	11,443	11,064	27,392	31,967	23,945	26,359	92,470	88,777
	56.8%	58.9%	58.9%	60.1%	59.7%	62.6%	59.3%	61.9%	60.0%	61.3%	63.0%	65.4%	60.1%	61.9%	57.4%	60.2%	52.4%	53.9%
平均	60.4	61.9	61	62.1	61.5	63.8	61.2	63.1	61.9	63.1	61.6	65.1	63.1	63.2	60.4	62.6	58.7	59.8
中央値	70	72	71	73	71	74	71	74	71	74	73	75	71	74	70	73	67	69

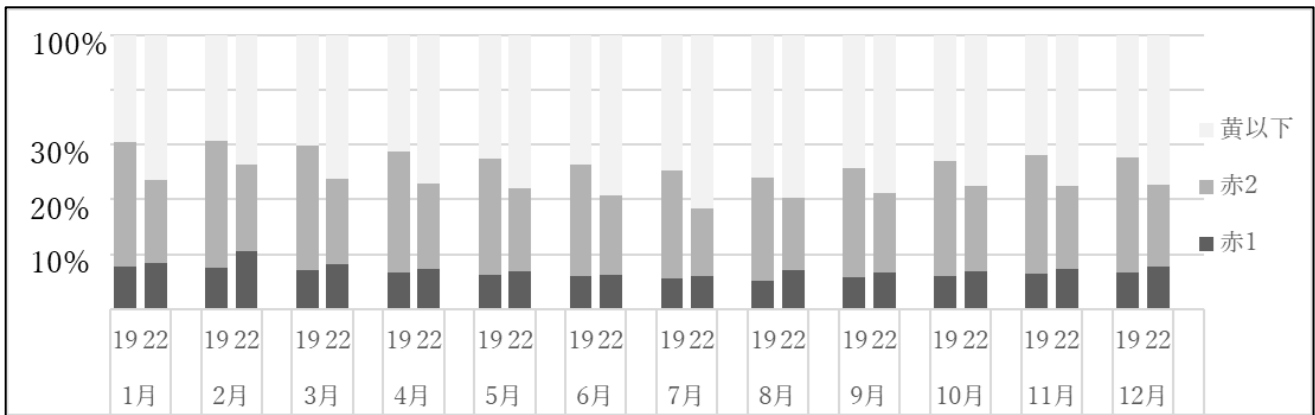
※「平均」及び「中央値」は、それぞれ年齢を示す。

4) 緊急度別搬送傷病者数・割合 (図表 18、19)

本府全域でみると 2022 年は対 2019 年比で低緊急度 (黄以下) の傷病者の割合が上昇していた。月別にみると、この傾向は年間を通して認められたが、特に第七波の時期は、低緊急度 (黄以下) の割合が高

く、7月はその割合が8割を超えていた。また、最高緊急度（赤1）の傷病者の割合も対2019年比で上昇していた。赤1の割合が上昇する傾向は、これまでは感染蔓延の極期に顕著であったが、2022年の月別データをみると、それほど目立たなくなった。

（図表 18）緊急度別搬送数・割合



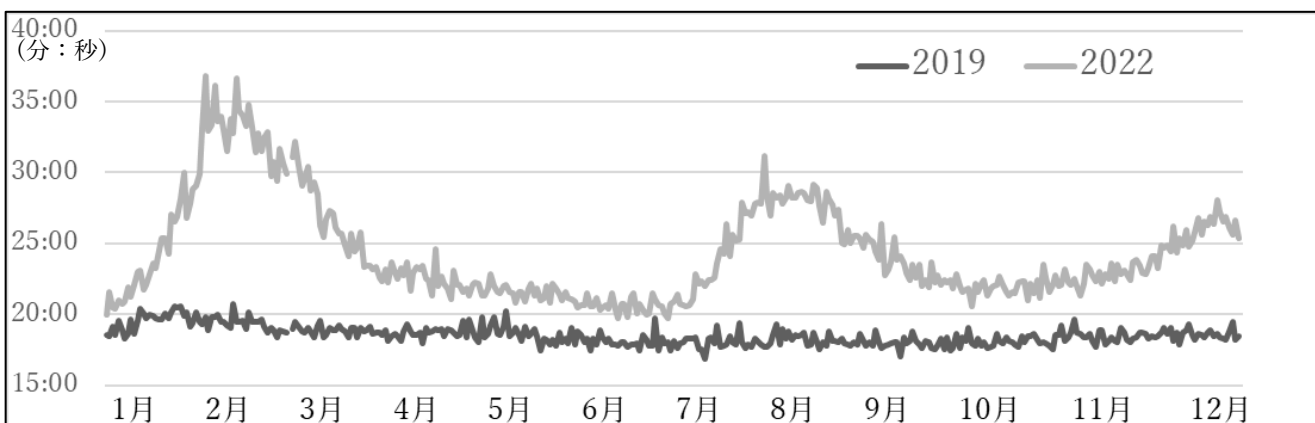
（図表 19）圏域別、緊急度別搬送傷病者数・割合

	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
赤1	29,819	34,879	3,190	3,478	1,816	2,407	3,672	4,091	2,874	3,401	1,782	1,706	3,923	5,501	3,088	4,588	9,474	9,707
	6.4%	7.4%	7.2%	7.4%	5.1%	6.2%	6.7%	6.8%	5.6%	6.7%	9.8%	10.1%	8.6%	10.7%	7.4%	10.5%	5.4%	5.9%
赤2	99,479	69,767	11,185	8,698	7,101	5,200	11,678	8,074	8,557	6,251	4,541	3,241	12,472	10,738	9,658	8,983	34,287	18,582
	21.2%	14.7%	25.1%	18.5%	19.8%	13.5%	21.2%	13.4%	16.6%	12.4%	25.0%	19.1%	27.4%	20.8%	23.2%	20.5%	19.4%	11.3%
黄	339,299	368,725	30,143	34,869	26,954	31,007	39,698	48,117	39,994	40,841	11,830	11,981	29,179	35,386	28,948	30,229	132,553	136,295
以下	72.4%	77.9%	67.7%	74.1%	75.1%	80.3%	72.1%	79.8%	77.8%	80.9%	65.2%	70.8%	64.0%	68.5%	69.4%	69.0%	75.2%	82.8%

5) 現場滞在時間（図表 20、21）

本府全域では、2022年は通年で現場滞在時間が延長しており、感染蔓延の極期はその程度が顕著で、特に第六波では非常に大きな変化を認めていた。所要時間の推移は、概ね府下の COVID-19 入院患者数の推移にそって変化しており、入院患者数が多い時期に著しく延長していた。圏域別には、特に大阪市医療圏と中河内医療圏で顕著な延長を認めており、大阪市医療圏における2月の現場活動時間は、対2019年比で2倍を超える時間を要していたことから、同時期に救急搬送業務に著しい影響が認められたことが推察される。

（図表 20）日々の現場滞在時間



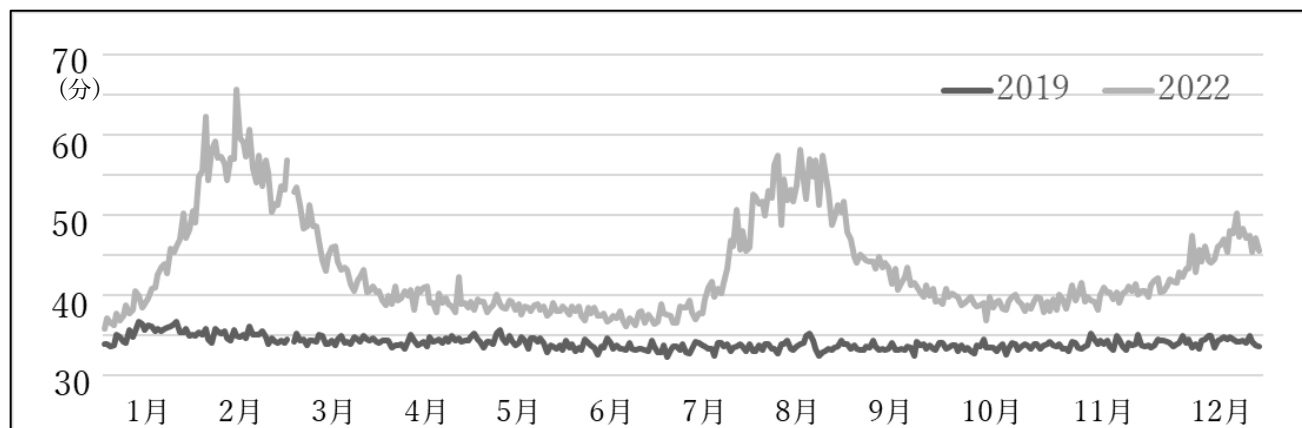
(図表 21) 圏域別現場滞在時間 (分：秒)

	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
1月	19:33	24:09	21:52	25:54	16:50	19:52	18:54	21:23	19:36	25:29	20:25	21:06	20:21	20:58	17:46	20:58	19:51	27:16
2月	19:21	32:53	21:21	32:30	16:50	26:30	19:01	27:29	19:31	33:38	19:12	25:14	19:37	27:19	17:55	27:03	19:44	41:38
3月	18:52	26:15	21:40	26:26	16:20	22:37	18:36	24:11	18:32	28:29	18:36	22:44	19:20	23:02	17:17	21:54	19:10	29:27
4月	18:42	22:29	21:06	23:00	16:17	19:29	18:38	20:51	18:33	24:36	18:09	19:49	18:36	19:11	17:22	19:59	19:01	24:50
5月	18:36	21:32	20:40	21:40	15:56	18:24	18:35	19:56	18:33	23:40	19:12	20:01	18:33	18:48	16:49	19:04	19:01	23:43
6月	18:07	20:35	20:09	20:24	15:34	18:08	17:53	19:26	18:08	22:54	17:53	19:19	18:09	18:05	16:50	18:32	18:29	22:12
7月	18:01	24:07	19:35	25:17	15:47	20:56	17:51	22:32	18:17	26:15	17:45	22:02	18:07	20:11	16:42	19:25	18:22	27:09
8月	18:15	27:33	19:51	28:37	15:50	24:08	17:52	26:02	18:39	31:41	18:29	24:21	18:18	24:10	17:31	21:21	18:29	30:57
9月	17:56	23:27	19:52	23:41	15:32	20:29	17:35	22:21	18:17	25:58	18:46	21:04	18:00	20:22	16:20	19:57	18:16	25:57
10月	18:07	21:56	19:21	22:23	15:38	18:50	17:40	20:53	18:47	24:47	18:35	20:50	18:12	18:59	16:40	19:34	18:33	23:48
11月	18:28	22:43	20:23	23:22	16:13	19:08	18:11	20:56	19:09	25:39	19:09	21:29	18:23	19:32	16:45	19:25	18:39	25:03
12月	18:36	25:33	21:01	26:50	16:07	22:36	18:10	24:38	19:14	27:45	18:05	22:43	18:26	22:11	17:12	21:38	18:49	27:57
平均	18:33	24:22	20:34	24:57	16:04	20:58	18:15	22:37	18:47	26:47	18:43	21:46	18:41	21:04	17:06	20:40	18:52	27:11

## 6) 入電から病着までの時間 (図表 22、23)

本府全域では、2022 年は通年で入電から病院到着までの時間が延長しており、感染蔓延の極期はその程度が顕著で、特に第六波では非常に大きな変化を認めていた。所要時間の推移は、概ね府下の COVID-19 入院患者数の推移にそって変化しており、入院患者数が多い時期に著しく延長していた。圏域別にはかなりのばらつきを認めており、概ね現場滞在時間と同様の傾向を示していた。

(図表 22) 日々の入電から病着までの時間



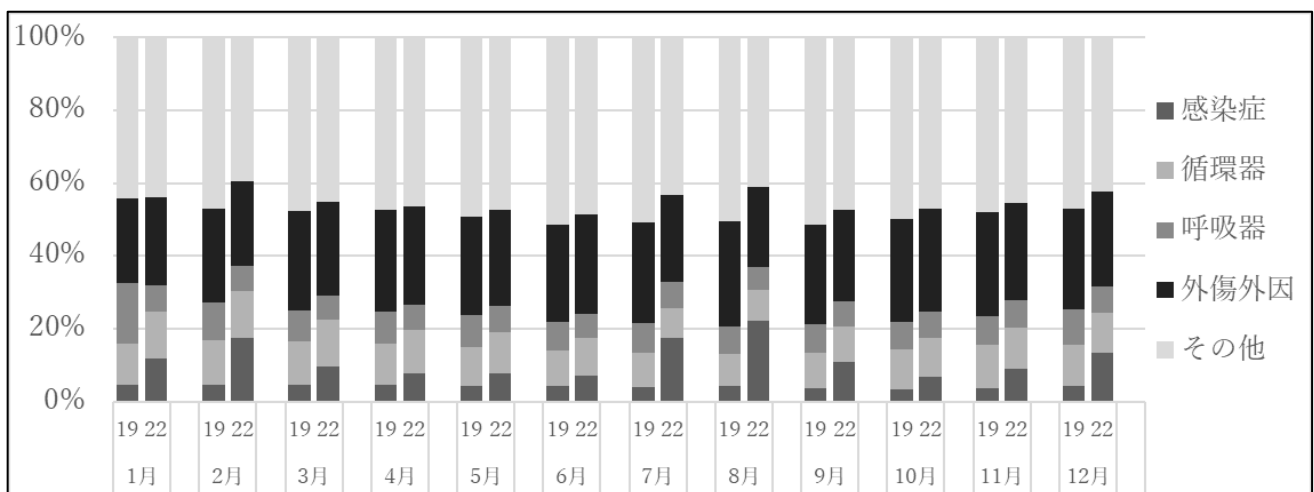
(図表 23) 圏域別入電から病着までの時間 (分：秒)

	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
1月	35:22	42:12	37:50	44:02	33:10	37:54	34:10	37:51	35:57	44:37	36:35	39:31	37:15	38:21	34:54	39:21	34:51	45:33
2月	34:58	56:29	36:51	53:09	33:01	46:38	34:01	46:07	35:25	55:28	35:51	45:44	36:18	46:23	35:04	46:37	34:37	73:17
3月	34:26	44:30	37:18	44:53	32:40	41:18	33:25	40:28	35:01	48:12	35:01	41:36	35:54	40:47	34:07	40:19	33:53	47:50
4月	34:18	39:36	37:08	40:53	32:30	37:19	33:44	37:08	34:56	42:54	34:18	38:07	35:01	36:12	34:31	37:54	33:41	41:13
5月	34:06	38:28	36:25	39:15	32:06	36:02	33:34	35:07	34:47	42:04	35:09	38:19	35:13	35:38	33:47	36:41	33:35	40:13
6月	33:33	37:21	35:54	37:32	31:17	35:24	32:28	35:00	34:31	40:45	34:15	37:27	34:35	34:49	33:53	35:55	33:03	38:35
7月	33:33	44:43	35:32	44:58	31:55	40:01	32:38	39:54	34:49	46:27	34:09	40:43	34:48	38:00	33:38	37:58	32:54	51:21
8月	33:43	51:16	35:44	48:33	31:41	44:48	32:38	44:49	34:53	55:02	34:03	44:29	34:42	42:41	33:53	40:20	33:17	62:31
9月	33:32	41:10	35:30	42:16	31:41	39:04	32:24	38:50	35:08	45:13	33:49	39:36	34:42	37:47	33:26	38:01	33:01	43:12
10月	33:38	39:01	35:08	39:42	31:50	36:15	32:28	36:36	35:05	43:38	33:53	39:26	34:50	36:04	33:34	37:25	33:16	40:25
11月	34:02	40:21	36:33	41:48	32:30	36:51	32:56	37:13	35:35	45:21	34:29	40:26	34:49	36:49	33:46	37:31	33:24	42:12
12月	34:18	45:14	37:14	46:38	32:10	41:50	32:40	42:33	36:01	48:53	34:10	42:12	35:01	40:12	34:19	40:35	33:45	48:41
平均	34:08	43:21	36:26	43:37	32:12	39:33	33:06	39:26	35:12	46:39	34:39	40:41	35:17	38:39	34:04	39:00	33:37	47:29

7) 疾患群 (図表 24、25)

2022 年は、2019 年と比較して感染症の割合が著明に上昇していた。これは大半が COVID-19 であると思われる U コードの病名の傷病者の搬送数が、増加したことを反映したものであると考えられる。月別にみると、感染蔓延の極期 (2、7、8、12 月) に感染症の比率が著明に上昇していたことから、COVID-19 が感染症の割合上昇に寄与したと考えられた。

(図表 24) 疾患群



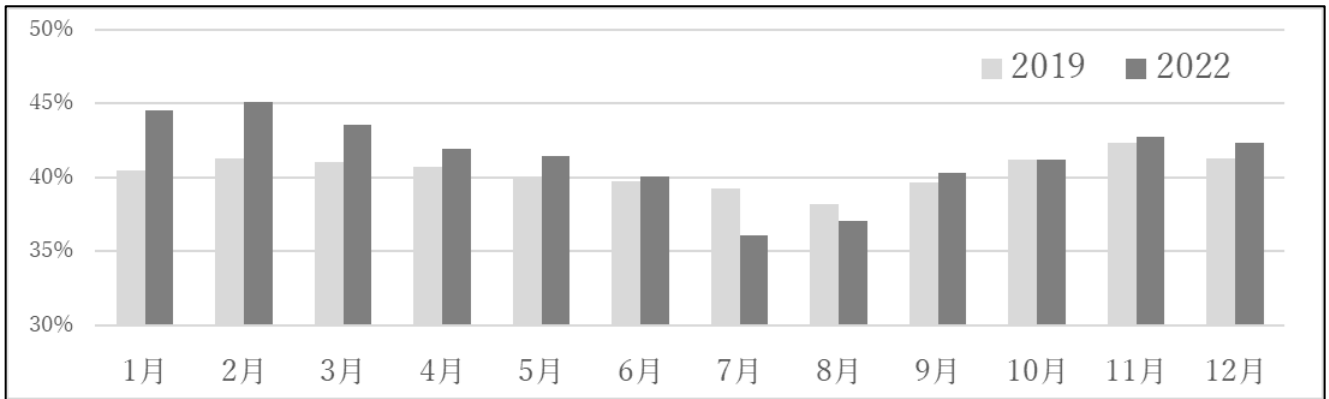
(図表 25) 疾患群

2019	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
感染症	2,090	1,543	1,650	1,706	1,639	1,527	1,644	1,824	1,406	1,292	1,360	1,792	19,473
	4.6%	4.4%	4.5%	4.6%	4.3%	4.1%	4.1%	4.2%	3.6%	3.4%	3.6%	4.3%	4.2%
循環器	5,108	4,342	4,504	4,224	4,016	3,715	3,784	3,931	3,731	4,090	4,438	4,683	50,566
	11.4%	12.4%	12.2%	11.4%	10.6%	10.0%	9.4%	9.0%	9.7%	10.8%	11.8%	11.3%	10.8%
呼吸器	7,495	3,583	3,039	3,180	3,352	2,924	3,280	3,240	2,986	2,902	3,039	3,966	42,986
	16.7%	10.3%	8.2%	8.6%	8.9%	7.9%	8.1%	7.4%	7.7%	7.7%	8.1%	9.6%	9.2%
外傷外因	10,449	9,029	10,138	10,406	10,210	9,819	11,207	12,714	10,659	10,669	10,704	11,440	127,444
	23.2%	25.8%	27.4%	28.0%	27.0%	26.5%	27.7%	29.0%	27.7%	28.2%	28.4%	27.7%	27.2%
その他	19,848	16,453	17,658	17,586	18,624	19,124	20,498	22,158	19,766	18,881	18,087	19,445	228,128
	44.1%	47.1%	47.7%	47.4%	49.2%	51.5%	50.7%	50.5%	51.3%	49.9%	48.1%	47.1%	48.7%
2022	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
感染症	4,800	5,693	3,364	2,778	2,850	2,804	8,364	9,626	4,051	2,693	3,469	5,979	56,471
	11.8%	17.5%	9.6%	7.7%	7.6%	7.2%	17.3%	22.1%	10.7%	6.8%	9.0%	13.3%	11.9%
循環器	5,237	4,212	4,484	4,245	4,282	4,004	4,030	3,696	3,756	4,241	4,303	5,033	51,523
	12.9%	12.9%	12.8%	11.8%	11.5%	10.3%	8.4%	8.5%	9.9%	10.7%	11.2%	11.2%	10.9%
呼吸器	2,905	2,215	2,366	2,487	2,627	2,562	3,423	2,801	2,639	2,769	2,887	3,167	32,848
	7.2%	6.8%	6.7%	6.9%	7.0%	6.6%	7.1%	6.4%	7.0%	7.0%	7.5%	7.0%	6.9%
外傷外因	9,793	7,576	9,109	9,658	9,920	10,692	11,554	9,542	9,519	11,152	10,290	11,792	120,597
	24.1%	23.2%	25.9%	26.9%	26.5%	27.4%	23.9%	21.9%	25.1%	28.3%	26.7%	26.2%	25.5%
その他	17,846	12,909	15,825	16,689	17,692	18,983	20,890	17,936	17,931	18,602	17,569	19,060	211,932
	44.0%	39.6%	45.0%	46.5%	47.3%	48.6%	43.3%	41.1%	47.3%	47.1%	45.6%	42.3%	44.8%

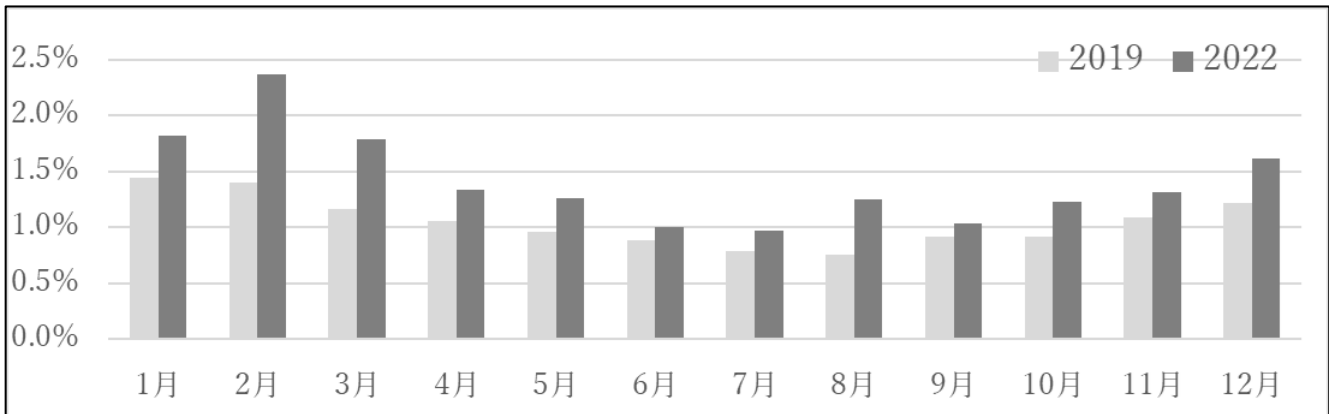
## 9) 転帰 (図表 26-29)

本府全域でみると、2022 年は対 2019 年比で外来帰宅できなかった割合がわずかに上昇していた。月別にみると、第六波までは、帰宅できなかった割合が対 2019 年比で低下していた。一方、第七波ではそれが逆転し、それ以降は 2019 年とそれほど変わらないという結果であった。これは、第七波の時期に特に低緊急度（黄以下）の搬送割合が上昇していたことを反映したものであると考えられた。コロナ禍以降、対 2019 年比で帰宅できなかった割合が低かったのは、今回が初めての現象であった。外来死亡の割合は 2022 年で上昇しており、外来死亡者数は 1,693 例増加していた。死亡例のうち、院外心停止と COVID-19 を除いた傷病者数は、対 2019 年比で 736 例増加していた。なお、外来死亡率を月別にみると、感染蔓延の極期（2、8、12 月）では、対 2019 年比の上昇が目立っていた。21 日以内に死亡した傷病者の割合および実数は、2022 年は 2019 年と比較して増加・上昇していた。死亡例のうち、来院時心停止と COVID-19 を除いた傷病者数は、対 2019 年比で 2,400 例増加していた。21 日以内死亡率を月別にみると、外来死亡率と同様に感染蔓延の極期（2、8、12 月）では、対 2019 年比の上昇が目立っていた。これらの傾向は、概ね全医療圏で共通であった。

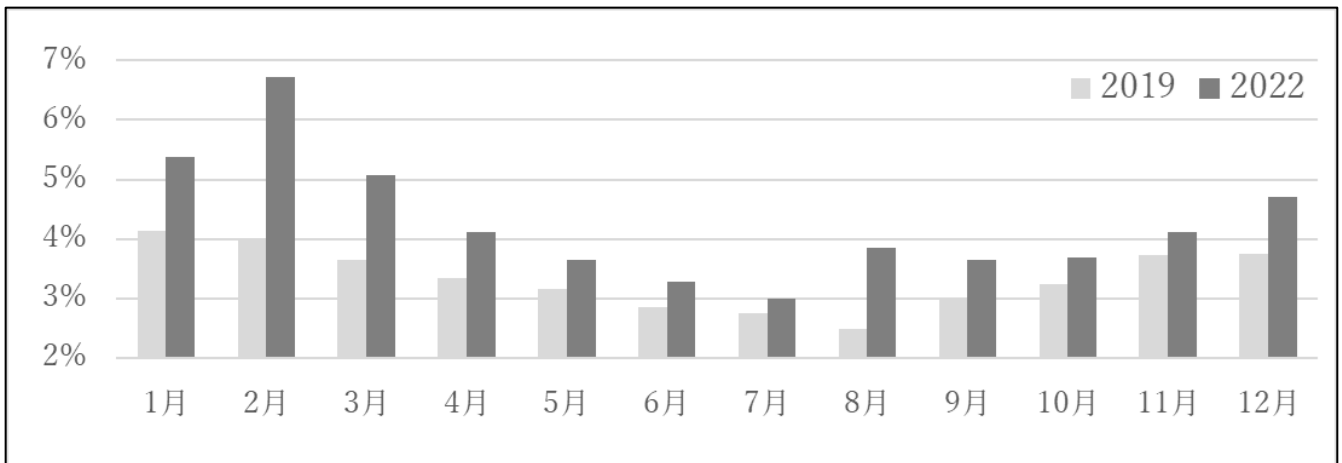
(図表 26) 本府全域の月別外来転帰：帰宅できなかった割合



(図表 27) 本府全域の月別外来転帰：外来死亡割合



(図表 28) 本府全域の月別 21 日後転帰：死亡割合 (外来も含む)





(図表 29) 転帰

	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
外来転帰	279,211	278,355	26,270	27,220	20,625	21,873	31,375	35,411	31,207	29,016	10,146	9,733	26,936	30,183	26,547	27,191	106,105	97,728
外来のみ	59.6%	58.8%	59.0%	57.9%	57.5%	56.6%	57.0%	58.7%	60.7%	57.5%	55.9%	57.5%	59.1%	58.5%	63.7%	62.1%	60.2%	59.4%
外来のみ 以外	40.4%	41.2%	41.0%	42.1%	42.5%	43.4%	43.0%	41.3%	39.3%	42.5%	44.1%	42.5%	40.9%	41.5%	36.3%	37.9%	39.8%	40.6%
外来以外群細	(外来のみ以外症例数に対する割合を下段に示した)																	
入院	177,825	180,694	17,266	18,745	14,460	15,698	22,325	23,044	18,885	19,985	7,538	6,417	17,162	19,573	13,960	14,891	66,229	62,341
	93.9%	92.7%	94.6%	94.6%	94.8%	93.8%	94.3%	92.7%	93.4%	93.1%	94.1%	89.2%	92.1%	91.3%	92.2%	89.7%	94.3%	93.2%
転院	6,612	7,684	617	625	409	557	677	919	686	608	257	506	929	1,201	657	1,007	2,380	2,261
	3.5%	3.9%	3.4%	3.2%	2.7%	3.3%	2.9%	3.7%	3.4%	2.8%	3.2%	7.0%	5.0%	5.6%	4.3%	6.1%	3.4%	3.4%
死亡	4,908	6,601	362	451	375	483	666	900	646	880	212	272	545	664	530	709	1,572	2,242
	2.6%	3.4%	2.0%	2.3%	2.5%	2.9%	2.8%	3.6%	3.2%	4.1%	2.6%	3.8%	2.9%	3.1%	3.5%	4.3%	2.2%	3.4%
未受診	41	37	3	4	2	3	5	8	1	4	0	0	2	4	0	2	28	12
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	府全体		豊能		三島		北河内		中河内		南河内		堺		泉州		大阪市	
	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022	2019	2022
外来転帰	15,620	19,932	1,419	1,629	1,102	1,596	2,182	2,773	1,927	2,389	696	747	1,548	2,267	1,394	1,798	5,352	6,733
最終転帰	(全搬送数に対する割合を下段に示した)																	
21日以内	3.3%	4.2%	3.2%	3.5%	3.1%	4.1%	4.0%	4.6%	3.7%	4.7%	3.8%	4.4%	3.4%	4.4%	3.3%	4.1%	3.0%	4.1%
死亡																		

## 【小括 (CQ2)】

2019年と比較し、2022年では本府全域の搬送傷病者数は同程度となり、世代別にみると特に高齢者での増加が著しかった。傷病者の重症度は上昇し、医療機関で感染症と診断された割合は増加した。入電から病着までの時間、現場滞在時間は、いずれも本府全域では延長したが、地域差が大きかった。外来帰宅率が低下し、初診時死亡数(率)、入院後21日以内に死亡した数(率)ともに増加・上昇していた。

## 【小括 (Category (1))】

Category (1) では、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う救急医療体制全般への影響について、2022年の救急搬送データを2019年のデータと比較することで検討した。

救急搬送された傷病者数は、2022年において2019年と比較して同程度となった。これはCOVID-19流行後、初めてとなった。救急搬送された傷病者を年齢別にみると、小児、成人の傷病者数は減少しており、高齢者では増加していた。搬送困難事例は2022年において通年で増加しており、事故種別にはよらないものであった。全体としての初診時および入院後21日以内の死亡数は増加していた。小児、成人では増加はなく、高齢者において増加を認めた。転帰という観点から新型コロナウイルス感染症の蔓延により救急傷病者が受けた影響を評価する上で、個別の傷病者群での解析が必要不可欠であり、その詳細をPart2で報告する。

以上、新型コロナウイルス感染症の蔓延により減少していた救急搬送傷病者数は流行前と同程度になったが、COVID-19と非COVID-19傷病者の並行した対応が求められ、本府の救急医療体制に影響が生じていた。